

「感動・全日本インカレ優勝」



初めて九州に渡った「文部大臣杯」



福岡大

ついに関東を超える！
日大を3-1、明大も法大もストレート

▲決勝戦での福岡大・長友 今夏の福岡大は3組とも4年生ベア、最後のインカレにかける意欲が強かった。しかも実力もほぼ同じとチーム力があり、またどの試合もゲーム展開がとても楽に進んでリズムにのっていた

▼山中 津下とのベアで福大の中心であった。決勝では最後に板東・曾川を2で騎して2勝、福岡大の初優勝を自らの手で決めた

(写真撮影は日本学連の草野伸夫理)



▲福大の山中 福岡大は決勝まで無失点（3組のせんめつ）と好調、しかも各組とも非常に楽にゲームを展開していた。この山中は津下とのペアで決勝の日大戦、2勝をあげて優勝を決めた（インカレの写真、解説文とも日本学連の草野伸夫理事）

決勝	
日大	福岡大
1 坂東・曾川 (5-1)	長友・和田
2 三好・橋詰 (0-5)	山中・津下
3 鎌戸・門馬 (3-5)	福丸・辻
4 坂東・曾川 (2-5)	山中・津下

大学対抗(男子) (エントリー80)				
1. 日大	3	3	福岡大 41	
11. 同志社大	2	3	0	法政大 51
26. 神戸大	3	0	1	中央大 61
31. 中京大	2	3	3	明治大 75

決勝戦まで全て一次戦のみで勝ちを決めている圧倒的強さの福岡大、決勝は昨年の準決勝と同じ対戦、一次戦終わった時点で日大は坂東・曾川を相手にだけとなった。二次戦大将の山中・津下が6-5、2であっさり下し、嬉しい初優勝を飾った。今まで西日本では勝つもののインカレでは勝てなかったのが、西日本を落とした年にインカレ優勝というのも皮肉なものだが、今年の福大の強さには目を見張るものがあった。

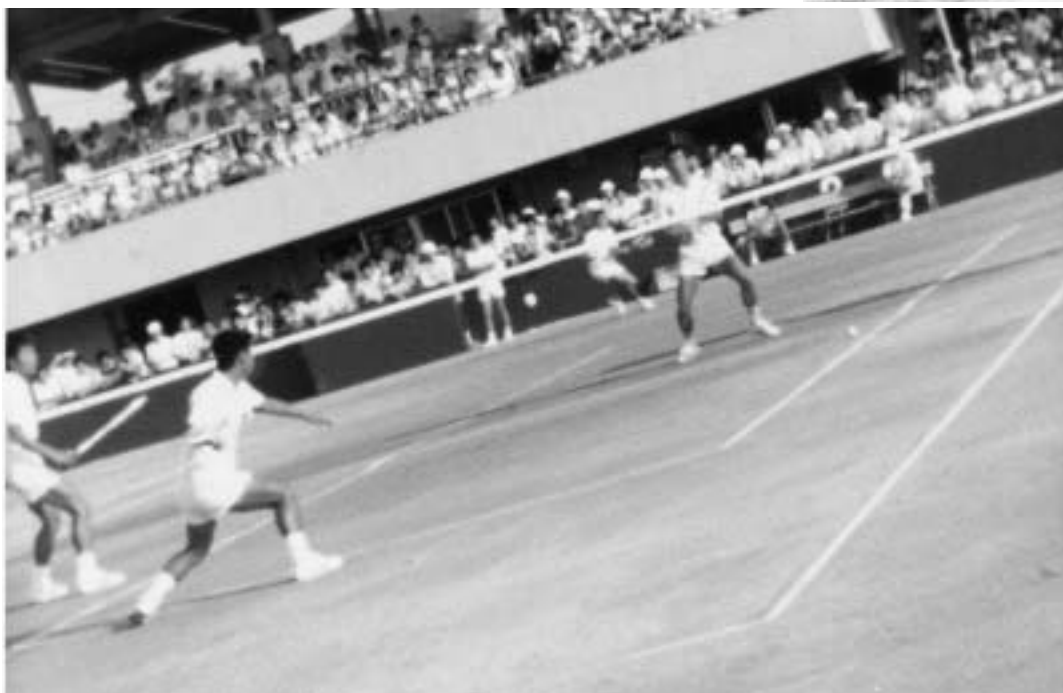


第36回文部大臣杯全日本大学対抗戦式庭球大会は、8月2日から伊勢市で行なわれました。2日間西地方を襲った台風の影響で伊勢入りもままならず、3日も雨の為に観戦が出来ないという志気を失なわされる様なコンディションの中4日から大学対抗の観戦に入りました。4日は打って変って快晴、本学は昨年3位の第3ツードということ、初戦は2回戦となりました。初戦からベストメンバー、長友・和田、山中・津下・福丸迄の(写真上)全員4年生で戦う本学、2回戦、拓殖大を③-0、そして3回戦地元三重大を③-0の気にした両による影響もなく好調を思わせるいい滑り出して初日を終えました。(左の写真は王座と打って変って好調の福丸)



1次戦を終了して2-1とリードをものにした本学、目の前の優勝に向っての全員の願いを山中(写真上)津下組に託し一丸となって2次戦に向った。対するは城東・曾川組、1次戦での対長友・和田組との余勢をかってがいい滑り出しを見せたものの除々に減る山中のストローク、津下のボレースマッシュの前には後半もうなすすべも無くミスも多くなり自滅の途をたどっていった。

(和田博明氏記録より)

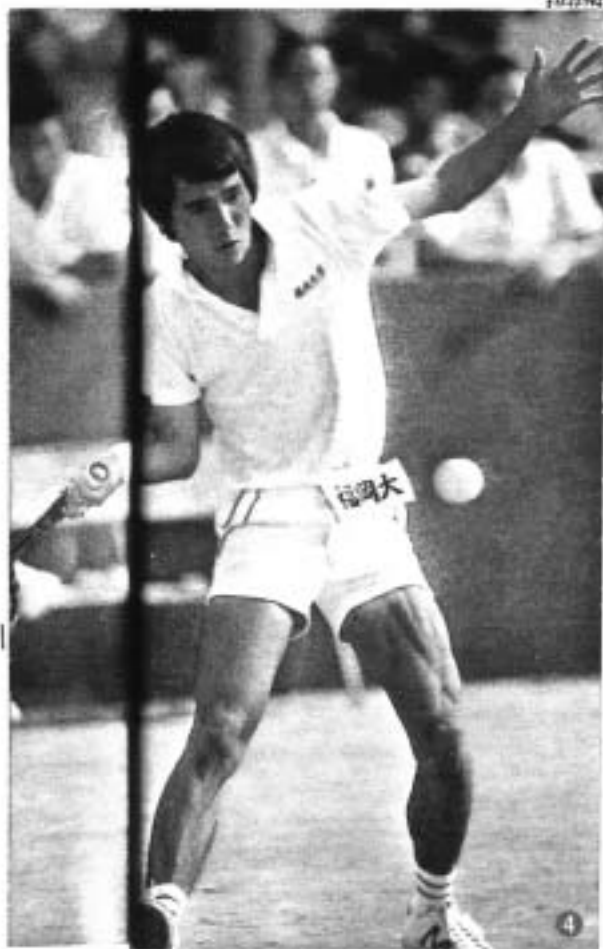




▲福岡大の長友(左)・和田 明大戦はトップに出て、刈崎・米沢を⑤-2で降しチームの勢いを盛り上げ、最初の関門を突破した



▲福岡大の辻 福丸とペアを組んでむろん全勝。法大戦では山中・大野を、決勝は鏡戸・門馬を、ともに3で降している



翌日コートを昨日の宇治山田商高からメインの伊勢市宮庭球場に移し、この日の初戦今期活躍著しい順天堂大と対戦しました。前日の好調をそのまま示す様に③-0と圧倒しました。準々決勝対法政大、相手の大将に対した本学福丸(写真左)辻(写真上右)組前半競ったものの後半一気に突破し、他の2ペア同様勝利を納め、まず第1の関門を③-0で突破し昨年と同じ舞台までは出来上がった。「これからが勝負」毎年こまては来ているのだから、という厳しい部長・監督・和田主将の言葉を胸に準決勝明治大戦に向いました。1次戦1番手本学長友・和田組(写真上左)対相手大将刈崎・米沢組、長友の変則的スロークが功を奏し、又和田の要所要所を締める勝負も良く⑤-2と大きな勝星をあげました。2番手本学山中・津下組対仁平・広田組、予想以上の相手の粘りでファイナルになったもののそこは西日本学生選手権優勝ペアの底力を発揮し⑤-4で勝利を手にしました。続く福丸辻組も⑤-1と快勝し③-0で初の決勝進出を決めました。

(和田博明氏記録より)



優勝決定の瞬間



表彰式



表彰式



4つに念願の大学日本一になり、表彰式に登場福岡大の選手たち。新の地知事選対
 抗やその後の学生選手権などで、福岡や東海地区をすでにしのいでいる福岡大は、開
 業のあべだけは抜けなかった。今大会は昨年1位の東3シードから、福岡（二重）、順
 天堂を降し、さらに逆転、次いで前年をともにストリートで降し決勝に進出。しかも
 無失点の快進撃であった。決勝のトップが今大会初の失点をしたが、あとをこぎ進め、
 逆転にしてはあまりにもあつけない相棒が成った。

●インカレ●

大学対抗

福岡大、日大降し念願の初優勝！



初優勝した福岡大メンバーの嬉しい笑顔がならぶ。全国を数え
 る大学対抗（国中、関西、東海以外の地区から優勝校が出たのは初
 め）という快挙だ。ここ数年まで、苦戦を繰り返した福岡大。今年は
 3部と4部に実力をつけて国中・津中が安定、練習も引く強さ

伊勢の地で遂に長年の目標を達成し本学軟式庭球部は全日本の
 頂点に立ったのです。この大会を振り返って私は思います。この勝利は部長
 監督、OB先輩方、部員一同の和に因って成し得た事であると。

(和田博明氏記録より)

1982

第36回 文部大臣杯

全日本大学対抗軟式庭球選手権大会

初の“全国制覇”の感激新た

福岡大が祝勝会



去る8月5日、初の全日本優勝を果たした本学軟庭部は、その感激を再びOB先輩方はじめ、多数の方々と共に分かち、味わった。

第36回 文部大臣杯
祝優勝 全日本大学



▲全国制覇をなしたレギュラー 全員が4年生と今年は充実していた。前列中央の城田監督はテニスショップを経営、お店を放り出して選手の旅団に同行するというからやはりたいへん

夏のインカレで念願の初優勝を果たした福岡大学軟式庭球部の、大学日本一を称える祝勝会が9月7日、0日会である球連会の主催で、福岡市学院の郵便貯金会館で盛大に行なわれた。会場には来賓会の先輩たちや地元軟式庭球関係者、学校関係者など約200名が集まり、城田監督はじめ選手、部員とともに、全国制覇の感激を改めて味わった。



▲軟式庭球部会長から労をねぎらわれる和田主将と加藤マネージャー（中央）

日時 昭和57年 9 月 7 日(火) 18時30分

場所 福岡郵便貯金会館(九電体育館隣)
〒810 福岡市中央区薬院4-14-52
TEL (092) 523-1 1 0 0

主催 福岡大学軟式庭球部球進会(OB会)

— 会 次 第 —

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 開 会 の 辞 | 6. 乾 杯 |
| 2. 接 拶 | 7. 祝 宴 |
| 3. 祝 辞 | 8. 万 歳 三 唱 |
| 4. 選手紹介・結果報告 | 9. 閉 会 の 辞 |
| 5. 記念品贈呈 | |

大会出場選手

部長 西 誠 也 監督 城 田 勝
主務 加 藤 哲 主将 和 田 博 明

ポジション	選手氏名	学部・学年	出身校 (県名・学校名)
後衛	福丸 和弘	商 4	宮 崎・都城商
◇	山中 浩幸	商 4	長 崎・島原商
◇	長友 敏	体育 4	宮 崎・妻
◇	梅元 雄祐	商 3	鹿児島・鹿児島商
◇	原口 俊之	経済 2	福 岡・北九州
前衛	和田 博明	商 4	宮 崎・都城商
◇	津下 浩一	経済 4	熊 本・八代東
◇	辻 誠二	法 4	広 島・忠海
◇	岡棟 盛三	法 3	広 島・音戸
◇	松元 誠二	商 1	宮 崎・都城商



「優勝記念」



部旗掲揚塔



優勝記念「湯のみ」

